

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	2/15(月)	2/16(火)	2/17(水)	2/18(木)	2/19(金)
無担保O/N	0.000% ~ 0.125%				
銀行券	+ 800	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政債	+ 47,200	△ 5,000	△ 1,000	△ 12,000	△ 1,000
資金需給	余 48,000	不 5,000	不 1,000	不 13,000	不 2,000
主な要因	年金定時払い 源泉税揚げ 国庫短期証券発行・償還 (3M) 国債発行・償還(2年)			国債発行(20年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,100 CP等買入 △ 600 国債補完供給 + 200				
オペスタート	国債買入 + 9,700	短国買入 + 17,500			
(日本)	GDP(10-12月速報) 営業毎旬報告 (2月10日現在)	業態別の日銀当座預金残高 (1月)		石田日銀審議委員講演 貿易収支(1月) 対外対内証券売買 (前週分)	
(海外)	米 株式・債券市場は休場 欧 EU外相理事会 (ブリュッセル) 欧 ECB総裁議会証言	米 NY連銀製造業景況指数 (2月) 米 ホストン連銀総裁講演	米 住宅着工件数(1月) 米 生産者物価指数(1月) 米 FOMC議事要旨 (1月26・27日分) 米 セントルイス連銀総裁講演	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 景気先行総合指数(1月) 欧 ECB議事要旨 欧 EU首脳会議	米 消費者物価指数(1月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (2月速報)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.001 ~ 0.100
SPOT 2M	0.001 ~ 0.100
SPOT 3M	0.001 ~ 0.120
SPOT 6M	0.001 ~ 0.130

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初252兆円台から始まり、9日に日銀による国債買入オペ・短国買入オペ等により254兆円まで増加したが、その後は国債発行等で減少し、週末には251兆円台となった。
無担保コールON物は、先週の地合いを引き継ぎ、週を通して0.06~0.075%での出合いとなった。同加重平均金利は0.072~0.073%で推移した。また、注目された12日のSN(16-17日)は0.001%での出合いが散見された。
ターム物は16日を跨ぐ期間(2W~1M)については0.001~0.01%の取引が見られた。

9日の国債市場では、新発10年物国債の341回債利回りは、午後の取引開始後に▲0.005%を付け、史上初めて長期金利がマイナス金利となった。その後は一時、▲0.035%まで低下した後、▲0.03%まで上昇し引けとなった。10日・12日は終値でそれぞれ0.005%、0.075%と上昇し越週した。
来週の予定は、国内では10-12月期のGDP(15日)、石田審議委員講演(18日)、海外では、ECBドラギ総裁の議会証言(15日)、米FOMC議事要旨(17日)、1月の米CPI(19日)等が挙げられる。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.001 ~ 0.003
TDB 3M	▲0.200 ~ 0.100
現先(on/1w)	0.001 ~ 0.030

<CP>

今週の入札発行額は約4,500億円で、期落ち額約5,700億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。
a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.010%近辺~0.030%近辺を中心に推移した。
現先レートの中心は、0.001%~0.030%程度で推移した。
来週の期落ち額は約4,900億円程度となっている。

<TDB>

10日に国庫短期証券3M第588回債の入札が行われたが、最高落札レートは▲0.1102%(前回債▲0.1009%)、平均落札レートは▲0.1335%(前回債▲0.1308%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで▲0.10%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週は17日に1Y、18日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは10日の短国6M発行の影響もあり、先週末対比で若干高い+0.05~+0.06%近辺の出合いから始まった。その後レートは上昇基調となり、12日受渡では0.075~0.09%のレンジで推移。短国3M発行日となる15日受渡では一時0.09%台後半まで出合いが見られたが、TNでは徐々にレートが低下し、+0.04%近辺での出合いも見られた。日銀当座預金にマイナス金利が適用される16日受渡は、0.00~+0.03%のレンジで推移した。
SCは、エンド日が新積み期間にかかるものは週を通してネガティブレートで出合い、16日受渡でも大半の銘柄がネガティブレートで取引された。5年債は124・125・126回債、10年債は321・325・328・335・338・339・340・341回債、30年債は48・49回債、40年債は7・8回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。